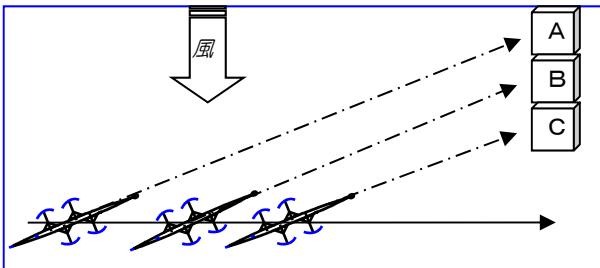


速く漕ぐ以前に、流れや風の中でも、適切にこの3つの操作を思い通りのタイミングと位置でできるようにすることが先決です。

1 直進 Going straight

無風静水時の直進では、艇の針路の延長線上の目標物の方向にいつも変わらず向いているようにします。艇尾を振り返り、航跡を確認することもあります。

横風や横からの流れがある場合は、目標物は艇の進行方向上に置かないで、風上または流れの上流側にずらして置くことになります。（目標物が十分に遠い場合を除き）、艇の進行とともに、目標物を順次、移していきます。

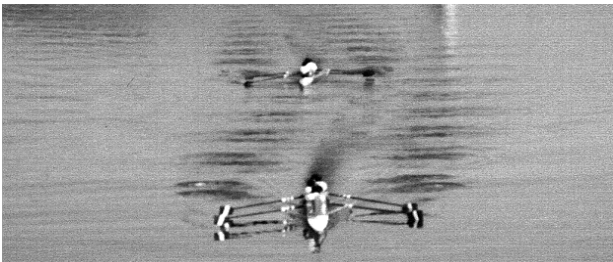


横風の場合、艇を、向きと目標物の順次シフト。

2 漕路の設定(直線, カーブ) Straight, Curve

水域では常に航行ルールが優先ですが、基本は川の中央かやや右寄りを進み、川岸近くは浅く障害物がある可能性も大きいので、避けます。曲流部では、死角に注意しつつ、なるべく緩やかなカーブを描きます。

レーンの分離されていないヘッドレースでは、後続艇の進路にも配慮しましょう。特に、後続艇に追いつかれつつある場合はその進路を妨害せず、また抜く艇も追突を避けるコースをとるべきです。お互いのコース設定を考えることが大切です。



オープンコースでの漕路設定にはセンスと熟練が必要。

3 停止 Stop

通常の[停止]: 通常は漕ぐのを止め自然の減速に任せます。「イージー・オール！」(Easy All)で、フィニッシュの後、フェザーでミドルポジションまでもどった状態で動作を停止し、少し減速して、次に、「イージー」(Easy)で水面に落として休止とします。「ありがとう」の声もよく使います。

緊急停止: 全漕手がブレードを立てて抵抗にして停止します。ただし艇速が速い時に、いきなり完全にホールドするとハラキリになり漕手が飛ばされるので、「斜めに」ブレードを水面に当て、徐々に水中に沈めながらスクウェアにします。

衝突回避: 艇の針路変更を伴いながら急停止したい場合は、操舵と、片方のサイドのホールド(ストップ)を先行します。衝突を避けるために、オールを(インボード方向に)引き抜くか、シャフトを艇に平行にするなども行います。

回避の操舵について最も注意しなければならないのは、「スター

ンラダーの操舵は、車や自転車をバックさせているのと同じ」ということです。避けるつもりでも、艇尾が危険物に接近するメカニズムをよく理解し、間違ったステアリングにならないようにしましょう。後述する旋回でのブレード位置の効果も組み合わせて、艇の挙動を制御しましょう。



ケンブリッジ大, 2003年テムズ川での衝突事故 (www.nlroei.nl より)

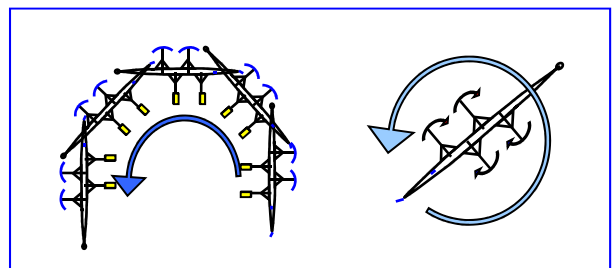
4 旋回 Basic Steering for Spinning

「艇を回す」には、基本的な3つのモード: サイドのバランス/ストップ/バックを使い分け・組み合わせて艇の位置を制御します。(図はスリップですがスカル艇でも同様です。)

ロウ(またはバック)+バランス: 片サイドだけ漕ぎ、逆サイドをバランスにすれば、大回りになります。初心者はまずこのパターンから始めます。指示例:「バウサイドバランス, 整調サイドロウで艇を回そう」…「整調サイドから, さあいこう。」

ロウ(またはバック)+ホールド(ストップ): 片サイドのロウ(またはバックロウ)と、逆サイドのホールド(ストップ)では、小回りになります。指示例:「整調サイド=ホールド, バウサイド=ロウで艇を回そう」「バウサイド, ロウ。」)

バックロウとロウ: 全員のスライドを合わせ、片サイドのロウと逆サイドのバックロウを交互に行います。艇がほぼその場で回せます。(指示例(左に旋回:「両舷で艇を回そう」「整調サイド=バックロウ, バウサイド=ロウ」「整調サイドから, さあいこう」)(ノールスライドで両舷同時にする方法もあります。)



回しながら艇の位置を変えるか、あるいはその場で回したいか?

注意: 旋回は、周囲を確認し、安全な位置とタイミングで回します。橋脚や障害物の上流近くは危険です。何かのトラブルや油断で旋回動作が遅れ衝突するリスクを考えましょう。

